



小渡山照明院 医王寺

つくば市谷田部6189
本尊は阿弥陀如来、弘法大師の作と伝えられる。大同年間(806~810年)の開山とされる。元和2年(1616年)、細川氏が谷田部に封ぜられると、陣屋の鬼門除けの祈願寺として改めて開創。薬師堂は、天正中(1588~1591年)、由良氏が先祖の岡見氏の先祖を供養するため開いた、七観音八葉師のひとつ。昭和61年(1986年)の再建。境内には弁財天を祀っている。



八坂神社

つくば市谷田部2949
祭神は素戔嗚尊(スサノオノミコト)。旧村社。江戸初期の建立。境内には大六天神社、稲荷神社が祀られている。毎年7月下旬に、八坂神社をスタートして、神輿を担ぐ祇園祭が開催される。

かつて、谷田部の市街地を整備した藩主細川公のルーツは、栃木県茂木町にあった。



能持院 曹洞宗

栃木県茂木町塩田27
能持院は、この地で初めて茂木氏を名乗ったとされる茂木家の祖・八田知基(茂木知基)が1222年に創建した曹洞宗の寺院。もともとは茂木氏の菩提寺であったが、1610年に細川興元が茂木に封ぜられてからは、細川家代々の菩提寺となった。境内に今も残る細川家墓所は県指定史跡になっており、寺院の入り口にある文明年間の建立とされる総門は県有形文化財に指定されている。



茂木

八雲神社

栃木県茂木町茂木1609
茂木町にはかつて、細川興元の御霊をお祀りしていた大光神社があった。細川興元は、戦国三英傑(織田信長、豊臣秀吉、徳川家康)に仕えるという、戦国時代の歴史を語るうえでは欠かせない、非常に重要な務めを果たした人物の一人で、徳川家第二代将軍秀忠から、関ヶ原での勇猛果敢さを認められ、下野国芳賀郡茂木に1万石を与えられて、茂木藩の初代藩主となった。その御霊・大光霊神を祀ったのが、茂木の地にあった大光神社であり、その後大光神社は、八雲神社へと合祀され、現在は八雲神社の配神として祀られている。



愛宕神社

つくば市谷田部6195
江戸初期の創建とされる。谷田部市街地を見下ろす高台にある。



八幡神社

つくば市谷田部3025
祭神は菅田別命(応神天皇)。江戸初期の創建。



大渡山不動尊

つくば市谷田部14865
不動尊の創建は不詳。境内に「記念碑」あり。



関ヶ原の役後、徳川氏に仕えた初代藩主細川興元は、大阪夏の陣の功績により谷田部六〇〇石余を増され、本城、茂木(栃木県茂木町)と合わせて二万六〇〇石余の大名となった。

江戸時代を通じて、谷田部を領有した細川氏は、清和源氏の後えいで、室町時代に管領となっていた細川氏の二流に和泉守護家の細川元常がいた。この元常には子供がなく、長岡藤孝を養子にした。藤孝は玄旨幽斎と号し、詩歌にすぐれた故事を通じており、織田信長や豊臣秀吉に仕え、晩年には徳川家康にも仕えた。藤孝の嫡子忠興はすぐれた戦国武将で熊本五万石を領し、細川氏の祖となった人である。次子を興元といったが生れきわめて乱暴者であったと伝えられている。興元は朝鮮侵攻の時には兄忠興と共に参加し、続いて関ヶ原の役には徳川方につき忠興に属して出陣した。その後、徳川秀忠に召し出され慶長五年(1610)七月二十七日、下野茂木一萬石を給せられた。

関ヶ原の役後、徳川氏に仕えた初代藩主細川興元は、大阪夏の陣の功績により谷田部六〇〇石余を増され、本城、茂木(栃木県茂木町)と合わせて二万六〇〇石余の大名となった。興元の戦功を賞して二〇万石の大名に引き立てようと兄忠興に伝えたところ、「弟は生来の暴れ者で二〇万石の器ではない。彼を大名に取り立てることは身を誤り国を乱すもどである。」と固辞した。家康はこの言を入れ、興元には二〇万石の格式を与えたが僅かの加贈にとどめたと伝えられている。すなわち、元和二年(1616)七月二十六日、興元は常陸国谷田部六二〇〇石余を増贈され、茂木と併せて二万六〇〇石余の大名となった。その後、興元は、兄が二〇万石を固辞した話を伝え聞き大いに立腹し、それ以後数百年に亘って熊本五万石の本家と不和になったと言われる。

谷田部陣屋の設置

細川氏の下野茂木領は江戸から三六里(約140km)もあり、交通がきわめて不便であったが、新しく加贈された谷田部領は、江戸から五里(約60km)で道路も平坦だった

家臣の構成

谷田部藩の家臣の構成をみると、天保二年(1840)における藩士の数は、江戸屋敷五八名、茂木陣屋四七名、谷田部陣屋四三名、計四八名であった。この他に奥女中、足軽、門番、水汲、大工など二八名、扶持を与える寺院、出入商人など三〇名で、合計三三〇名であった。

城下町の形成

二代藩主興昌は谷田部陣屋を設置すると同時に、城下町の形成にも力を注いだ。陣屋の大手門から江戸に通ずる街道を整備、今は現存しないが、つくば工科大学前付近にあった不動並木は、この頃植えられたものと考えられている。また、町内を通る道路は、陣屋付近で直角に曲がっているが、この道路も同じ頃に整備したものである。陣屋の北東側にあたる小渡山には、鬼門よけとして医王寺を建立した。

細川氏の系図

